

基盤割コース詳細

① 蕉風発祥の地(しょうふうはっしょうのち)



中区錦三丁目 46 番地先

貞享元年(1684)、芭蕉七部集の第一集「冬の日」がまとめられたのは、「尾張名古屋の宮町筋、久屋町角西へ入る南側」傘屋久兵衛の借家。現在のテレビ塔東北の脚の北あたり。
このとき芭蕉は「こがらしの身は竹斎に似たる哉」と発句した。それを記念して「蕉風発祥の地」の碑が建てられている。

② 少彦名神社(すくなひこなじんじゃ)



中区丸の内二丁目 2-24

京町は、江戸の本町、大阪の道修町と並ぶ日本三大薬屋の町として城下町時代から栄えたところ。その数ある薬屋たちが「薬祖神」として大正 4 年(1915)に創建した神社。
祭神の少彦名命と大国主命は、ともに健康をつかさどる神、薬の神として知られる。

③ 愛知県護國神社(あいちけんごくじんじゃ)



中区三の丸一丁目 7-2

明治元年(1868)の戊辰戦争戦没者を、明治 2 年尾張藩主・徳川慶勝が奉祀したのに始まる。
社名は旌忠社(せいちゅうしゃ)、招魂社(しょうこんしゃ)、愛知神社、愛知県護國神社と改称され、場所も広小路町川名山、城北練兵場(現在の名城公園内)から現在地へと変遷した。県下の全戦没者を合祀している。
例祭は春のみたま祭(4 月 28 日から 3 日間)、秋のみたま祭(10 月 28 日から 3 日間)。

④ 那古野神社(なごやじんじゃ)



中区丸の内二丁目 3-17

祭神は素盞鳴尊(すさのおのみこと)。創建は延喜 11 年(911)。
古くは「天王社」、「亀尾天王社」と呼ばれ、慶長の名古屋城築城後は城内の三之丸の一角に鎮座することになったため、城の鎮守神、城下名古屋の氏神とされた。明治 9 年、現在地に移り、明治 32 年「那古野神社」と改称した。

⑤ 東照宮(とうしょうぐう)



中区丸の内二丁目 3-37

祭神は徳川家康。元和 5 年(1619)、藩祖・義直が父・家康の霊を祀るため名古屋城内三之丸に創建した。明治 8 年、藩校明倫堂跡地である現在地に移し、義直の霊を合祀し、後に慶勝の霊を相殿に合祀した。
県の重要文化財に指定されている本殿は、義直夫人・高原院の霊廟として、慶安 4 年(1651)に万松寺に建てられたもの。

① 金明竜神社のムクノキ



中区丸の内二丁目 2-18

東照ビル南西、金明竜神社のご神木。幹周り 5.25m、根回り 7.70m、樹高 21m で樹勢旺盛。名古屋一番のムクノキの巨木。
この地は、尾張藩主の重臣であり、俳人でもあった横井也有(やゆう)の出生地。明治以降は明倫小学校の校庭になったが、第二次世界大戦の後、金明竜神が祀られた。

② 桜天神社(さくらてんじんしゃ)



中区錦二丁目 4-6

祭神は菅原道真。織田信秀が天文 7 年(1538)、菅公の木像を祀ったのに始まる。境内に桜の大木が群生していたため桜天神と呼ばれていたが、この桜は万治 3 年(1660)の大火で焼失した。
また、城下町へ時を告げる「時の鐘」があり、一般に時刻を知らせていた。時報は、明治以後は師団の「ドン(大砲の空砲)」に変わった。
現在の「桜通り」は、この桜天神に由来する。

③ 福生院(ふくしょういん):袋町のお聖天



中区錦二丁目 5-22

真言宗智山派の寺院。福生院というよりは、「袋町のお聖天」として知られる。お聖天は歓喜天のことで、男女和合の福神様。
この寺のかいわいが名古屋第一の芸者の組合・盛栄連の本拠地だった明治・大正・昭和の初めは大いに栄えた寺院である。

④ 聞安寺(もんあ(な)んじ):吉田昭和、紹敬茶道顕彰碑



中区錦三丁目 10-24

三重県桑名、愛知県清洲を経て、寛永 3 年(1626)にこの地に移った真宗大谷派の寺院。境内に立つ吉田昭和とその子・吉田紹敬の茶道顕彰碑が見どころ。
吉田家は松尾家や蜂谷家とともに「茶どころ名古屋」を支える家柄。